



RoomOS 11.9

# Cisco Room Series ユーザーガイド

Touch 10 または Room Navigator を使用するデバイス



目次

# このユーザ ガイドの内容



## はじめに

ベストプラクティス	4
RoomOS 11: 基本的なナビゲーション	5
USB カメラとして Room Kit Mini を使用する	6
自分のログイン情報でサインインする	7



## ビデオ通話

RoomOS 11: 呼制御	9
オーディオ設定	10
連絡先リストから通話を発信する	11
発信前に連絡先を編集する	12
名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する	13
着信通話	14
通話中に別の通話を受信する	15
通話を切断する	16
通話を保留にし、保留中の通話を再開する	17
応答中の通話を転送する	18
応答不可を有効にする	19
すべての通話を自動転送する	20
通話中にキーパッドを開く	21
進行中の通話に参加者を追加する	22
会議から参加者を退出させる	23
会議に参加者を追加する	24
会議中にスピーカーをピン留めする	25
会議中に挙手する	26
最近の通話詳細を検索する	27

## Cisco Proximity

Cisco Proximity の超音波信号	29
------------------------	----



## コンテンツ共有

通話中にコンテンツを共有する	31
Webex アプリケーションでコンテンツを共有する	32
Miracast® でコンテンツを共有	33
Airplay® でコンテンツを共有	34
通話中に画面レイアウトを変更する	35

## スケジュールされた会議

スケジュールされた会議に参加する	37
Webex 会議に参加する	38
サードパーティの会議に参加する	39

## お問い合わせ

お気に入り、最近の履歴、ディレクトリ	41
通話中に誰かをお気に入りに登録する	42
非通話時に誰かをお気に入りに登録する	43
お気に入りを編集する	44

## カメラ制御

通話中にカメラをオン/オフに切り替える	46
通話中および通話外のセルフビューにアクセスして調整する	47
セルフビューを移動する	48
自動カメラモードを選択する	49
カメラを手動制御する	50
カメラ位置プリセットを追加する	51
カメラ位置プリセットを編集する	52
遠端カメラを制御する	53

## 設定

デバイスの設定と規制情報	55
--------------	----

目次にある項目はすべてハイパーリンクになっています。ハイパーリンクをクリックすると、対応する項目に移動できます。

サイドバーのアイコンをクリックすると、章単位で移動できます。

このガイドでは、オンプレミスサービスに登録された Touch 10 または Room Navigator での次の製品の使用方法について説明します。

### Room Series:

- Room Bar
- Room Bar Pro
- Room Kit EQ
- Room Kit EQX
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room Kit Plus (Codec Plus 搭載)
- Room Kit Pro (Codec Pro 搭載)
- Room 55 および 55 Dual
- Room 70 および Room 70 G2
- Room Panorama および Panorama 70

注意：このユーザーガイドで説明する一部の機能は特定の市場においてオプションであり、お使いのデバイスには該当しない場合があります。



はじめに



はじめに

## ベストプラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、対面式の会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

### 会議室内

- すべての発表の音声拾われるように、マイクをテーブルの前方に設置してください。デバイスの正面から 2 m (6.5 フィート) 以上、テーブルの前方の端から 30 cm (1 フィート) 以上離れた平らな面が最適です。
- 指向性マイクはデバイスの反対側に向ける必要があります。
- マイクの前方に物などを置かないようにしてください。
- マイクは、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなどのノイズ源から離してください。これらのノイズ源からの雑音は、リモート参加者にとっては予想以上に大きく聞こえます。
- 書画カメラやホワイトボードカメラを使用する場合は、カメラと会議リーダーとの距離や、カメラと専用コントローラとの距離が縮まるように参加者を配置します。
- ホワイトボードを使用している場合は、専用のホワイトボードカメラだけでなく、メインカメラからもホワイトボードが見えた方が、リモート参加者を配慮した会議になります。放送会社は通常、この手法を用いてプレゼンターが実際に同じ部屋にいるように見せています。
- 会議中に指を指したり、ディスプレイを変更したり、録画したり、その他機能を操作できるように、すべての周辺機器を一人の参加者の手に届く位置に配置します。

- できるだけ自然な会議環境を確保するために、可能であればカメラを受信モニターの上中央に配置します。遠くにいる会議参加者とアイコンタクトを行えるよう、カメラを会議出席者に直接向ける必要があります。ビデオデバイスのセルフビュー機能を使用してこれを確認します。セルフビューは、リモートの出席者に表示される映像を、自分のデバイス（発信ビデオ）に表示します。
- コンテンツを共有する場合、通常はデュオビデオを活用します。つまり、2 つのビデオストリームを使用します。1 つはプレゼンテーション用、もう 1 つはプレゼンター（またはプレゼンターのグループ）用です。小型のデバイスでは、プレゼンテーションとプレゼンターのどちらを表示するかを選択しなければならないことがあります。

## その他のヒント

### カメラのプリセットを使用する

Cisco Webex デバイスでは、ズームおよびカメラの向き（パンとチルト）を事前に定義できます。必要であれば、これらを使用し、発言者にズームします。その後、サイドズームアウトすることを忘れないでください。カメラトラッキング機能のあるデバイスでは、この操作は不要です。

### スピーカのボリューム

音声システムは、モニターの内蔵スピーカーか Cisco Digital Natural Audio モジュールを使用します。

一部のデバイスでは、モニターリモートでモニターの音量を調整することで、デフォルトのボリュームレベルを設定できます。

### 明るさ調整

モニターの明るさ、色、その他設定を調整するには、モニターのリモート制御を使用します。会議室の状態に合わせて、モニターを調整します。シスコのモニターには非常に簡単に使用できるオンスクリーンメニューがあります。各モニターの設定方法については、該当するユーザーガイドと管理者マニュアルを参照してください。



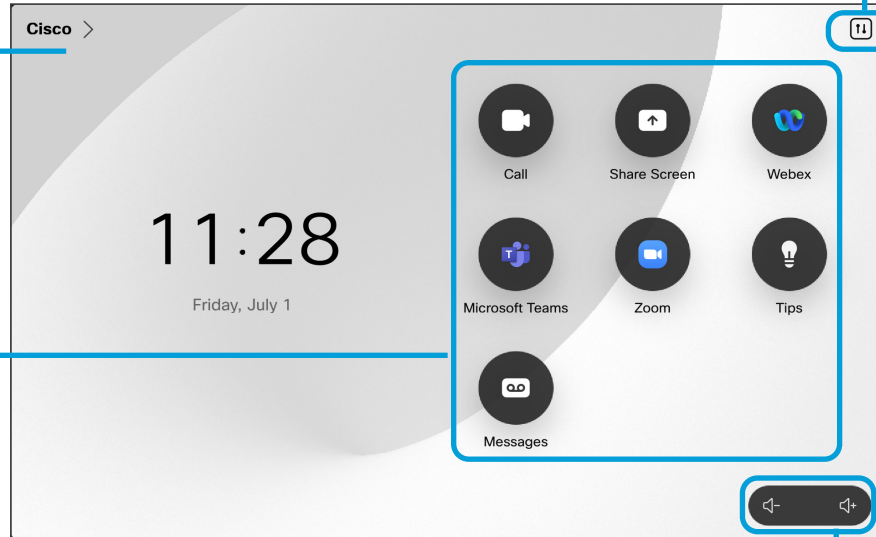
はじめに

# RoomOS 11: 基本的なナビゲーション

接続されているデバイスの名前をタップすると、その連絡先情報が表示されます。

ボタンの下のドットは、画面外にボタンがまだあることを意味します。右からスワイプするとそれらを表示できます。

ホーム画面の中央には、時刻と日付のほか、以前と同じように機能する [通話(Call)] や [Webex] などの使い慣れたボタンが表示されます。



タップして、新しい画面でコントロールパネルを開きます。

Room Navigatorの音量調整は画面上にあります。

## RoomOS の導入

Cisco Touch 10 および Room Navigator は、新しい RoomOS 11 オペレーティング システムをサポートしています。

使い慣れた機能のほとんどは以前と同じように動作しますが、一部が変更されているか、別の場所からアクセスします。新しい機能も使用できるようになりました。

このガイドでは、Board および Room Series のデバイスに接続されたタッチコントローラの RoomOS 11 ユーザーインターフェイスにある新機能と既存機能に対して行った変更の一部を紹介します。

RoomOS 11 のユーザー体験の詳細については、<https://help.webex.com/n01kjh1/> を参照してください。



はじめに

## USB カメラとして Room Kit Mini を使用する

Cisco Webex Room Kit Mini は、USB カメラとしても使用できます。

Room Kit Mini をシスコに登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

Room Kit Mini をシスコに登録している場合も USB カメラとして使用できますが、次の点に注意してください。

- Room Kit Mini は、ソフトウェアクライアントがカメラを使い始めたとき、およびケーブルが接続されていないときに [応答不可 (DND)] モードになります。
- これにより、専用のコンピュータが常時 Mini に接続されている場合でも、通常のシスコ通話に Room Kit Mini を使用することができます。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Room Kit Mini の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この構成では、Room Kit Mini のマイクとスピーカーが使用され、優れたサウンド体験が実現されます。

この構成を拡張して外部モニターを含める場合は、通常の方法でコンピュータをモニターに接続します。

カメラコントロールは Room Kit Mini の Touch 10 から完全にアクセスできます。

その他のデバイス設定も、[応答不可 (Do Not Disturb)] を除いて完全にアクセスできます。[応答不可 (Do Not Disturb)] は、シスコに登録された Room Kit Mini で無効にすることはできません。

登録時に USB カメラとして使用する

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

カメラは Touch 10 から制御されます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときは常にカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

未登録時に USB カメラとして使用する

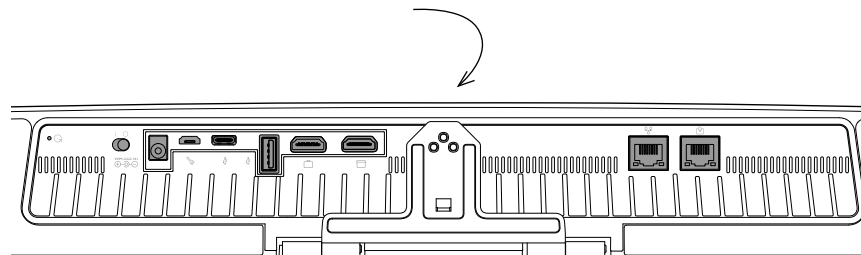
シスコのビデオデバイスを初回起動すると、セットアップウィザードが表示されます。

このウィザードでは、シスコサービスへの登録方法(クラウドまたはオンプレミス)を指定できます。Room Kit Mini を USB デバイスとしてのみ使用する場合は、このウィザードをスキップできます。

登録方法を示す詳細な手順が画面に表示されます。

後で Room Kit Mini をシスコに登録する場合は、[設定 (Settings)] に移動し、[デバイスの有効化 (Device Activation)] を選択します。

コンピュータを USB-C ソケットに接続する





はじめに

## 自分のログイン情報でサインインする

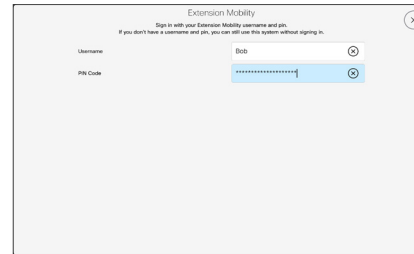
1



[Extension Mobility] ボタンをタップします。

ボタンが表示されない場合は、[ホーム画面(Home Screen)] ボタンを左にスワイプします。

2



ユーザー名と PIN コードを入力し、[ログイン (Login)] をタップします。正常にサインインしたことを示す確認メッセージが表示されます。

3



ログアウトするには、[サインアウト (Sign out)] をタップします。ボタンが表示されない場合は、[ホーム画面(Home Screen)] ボタンを左にスワイプします。

## Extension Mobility について

会議室や静かな部屋に設置された CUCM(Cisco Unified Communications Manager)で動作するデバイスでは、個人用ログイン情報を使用してデバイスにログインできます。

CUCM は、その後その特定のデバイスにすべての着信通話をルーティングします。

Extension Mobility からログアウトすると、[履歴(Recents)] の一覧はデバイスからクリアされます。



# ビデオ通話





ビデオ通話

## RoomOS 11: 呼制御

通話を発信するには、ホーム画面の [通話 (Call)] ボタンをタップします。ビデオアドレスを入力するか、[お気に入り(Favorites)]、[履歴(Recents)]、または [ディレクトリ(Directory)] で通話相手を検索します。通話が接続されるとすぐに、[タッチコントローラ(Touch controller)] 画面に呼制御が表示されます。

通話中に左上隅の下矢印をタップすると、ホーム画面が表示されます。そこから、通話を中断することなく、[コントロールパネル(Control panel)] と [デバイス設定(Device settings)] にアクセスできます。

[呼制御(Call controls)] 画面には、自分のミュートとミュート解除、ビデオの開始と停止、会議から退出するための使い慣れたボタンが表示されます。

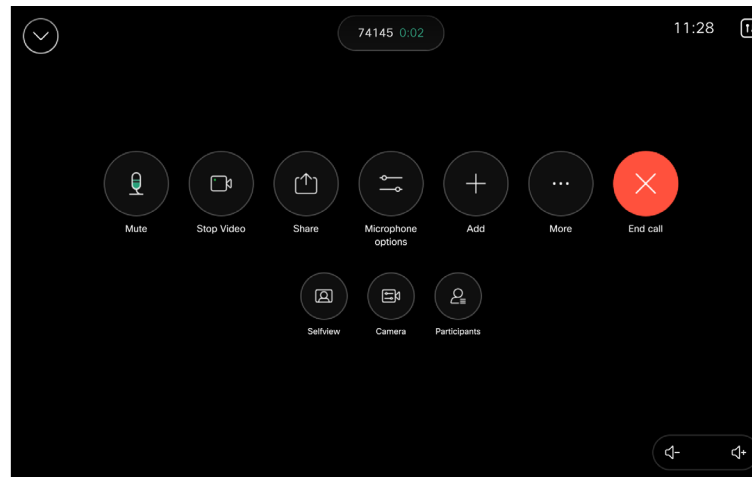
また、次にもアクセスできます。

- 共有。共有オプションを開きます。
- マイクのオプション。[コントロールパネル (Control panel)] でも使用できます。
- 詳細。通話中オプションのリストを開きます。
- レイアウト。[レイアウト (Layout)] メニューが開き、会議のスタイルに合ったレイアウトを選択できます。
- セルフビュー。セルフビューを調整および移動するためのオプションを含むカメラコントロールを開きます。
- カメラ。カメラを手動で調整し、ビューを保存するオプションを含むカメラモードを選択します。
- 参加者。現在の通話の参加者リストを開きます。参加者をタップすると、使用可能なオプション ([お気に入りとしてマーク (mark as Favorite)] など) が表示されます。

### 画面を拡張する

ラップトップ画面を拡張して Room Series のデバイスで共有するには、HDMI または USB-C ケーブルをラップトップに接続します。数秒後に、デバイスの画面にラップトップの画面が表示されます。

通話中に接続済みラップトップの画面をプレビューするには、[共有 (Share)] をタップします。ソースを選択し、[表示 (View)] をタップします。ラップトップの画面は表示されますが、他の通話参加者には表示されません。もう一度閉じるには、[非表示 (Hide)] をタップします。

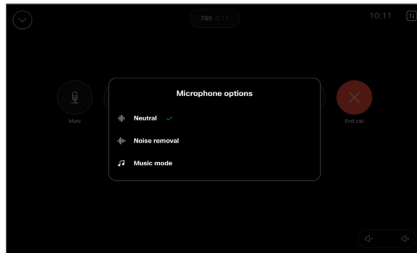




## ビデオ通話

# 音声設定

次の音声設定は、マイクのオプションから、通話中または通話外で使用できます。これらの設定のいずれかをオンにするには、デバイスのコントロールパネルを開き、[マイク (Microphone)] をタップします。オンにするオプションをタップします。いずれも必要ない場合は、[ニュートラル (Neutral)] をタップします。



## ノイズ除去

ノイズ除去を使用すると、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。ノイズ除去は、共有スペースやホームオフィスで特に役立ちます。タッチコントローラのホーム画面の右上にあるマイクアイコンをタップします。次に、[ノイズ除去 (Noise Removal)] をタップしてオンにします。オフにするには、[ニュートラル (Neutral)] をタップします。

## マイクのテスト

音声を録音して再生し、デバイスが音声を適切に拾っているかチェックし、ノイズ除去設定の効果をテストします。

## 音楽モード

[音楽 (Music)] モードを使用すると、通話中に音楽のダイナミックレンジを使用できます。これにより、音楽のニュアンスを聞くことが重要な場面でより良い体験が生まれ出されます。

[音楽 (Music)] モードは、リモート ミュージック レッスンや楽器のテスト、そしてその他の状況ですべての範囲の音楽を聞くことが重要な場面で活躍します。デバイスは引き続き、エコーキャンセレーションと環境背景雑音の軽減機能を使用するので、外部装置を使用する必要がなく、パフォーマンスを損なうこともありません。

[音楽 (Music)] モードが使用しない場合、デバイスは追加のノイズを除去し、サウンドレベルの変動を減らします。これは、会議設定に対応し、気を散らす雑音を除去するのに役立ちます。追加のフィルタ処理は、録音した音楽をデバイスで再生するときにも機能します。

[音楽 (Music)] モードを使用するには、まずデバイスでそのモードを有効にします。コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。[音楽モード (Music mode)] までスクロールして選択します。オンまたはオフに切り替えます。

注： [音楽 (Music)] モードとノイズ除去は同時に使用できません。

## 呼出音と音量

呼出音を変更したり、呼出音の音量を調整したりするには、ホーム画面でデバイス名をタップし、[設定 (Settings)] を選択します。[呼出音と音量 (Ringtone and volume)] に移動します。リストから呼出音を選択し、スライダーを使用してサウンドレベルを設定します。

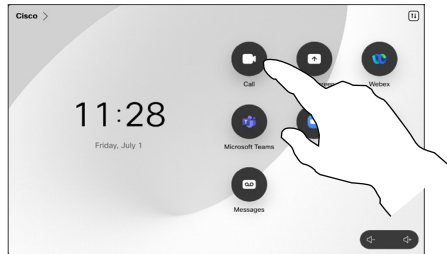
Touch 10 の音量を調整するには、ハードボタンを使用します。[ミュート (Mute)] ボタンを使用するとマイクをミュートできます。

Room Navigator では、ソフトボタンを使用してサウンドレベルを制御します。



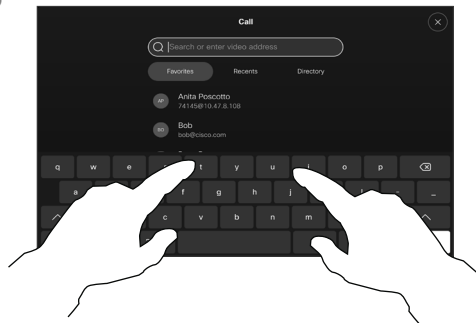
## ビデオ通話 連絡先リストから通話を発信する

1



[通話 (Call)] ボタンをタップします。

3



名前、番号、または URL を入力します。

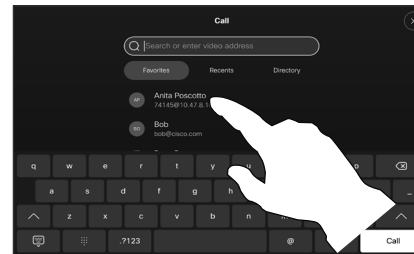
入力するたびに一致する結果が表示されます。

2



[履歴(Recents)], [お気に入り(Favorites)]、または [連絡先(Contacts)] をタップし、スクロールしてエントリを見つけます。または、[検索 (Search)] フィールドをタップして、すべてのリストを一度に検索します。

4



発信する相手をタップし、緑色の [通話 (Call)] ボタンをタップします。

## 連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つで構成されています。

お気に入り。これらの連絡先はユーザー自身が追加したものです。通常、頻繁に通話する相手や、すばやく簡単にアクセスする必要が生じる連絡先を登録します。お気に入りの連絡先にはアスタリスクが表示されます。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームがデバイスにインストールする社内ディレクトリです。

[履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

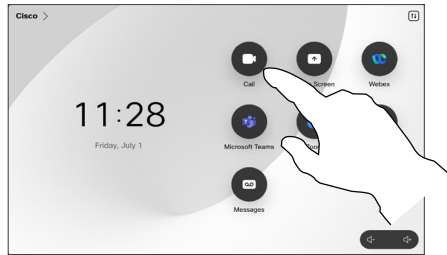
- 名前、番号、または URL を入力すると、デバイスが自動的にすべてのリストを検索します。
- [お気に入り (Favorites)] リストでは、エントリを追加したり、発信前にエントリの内容を編集したり、コールレートを変更したりできます。また、[履歴 (Recents)] からエントリを削除することもできます。



## ビデオ通話

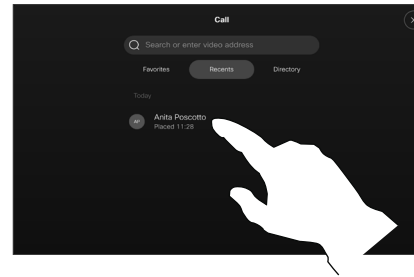
# 発信前に連絡先を編集する

1



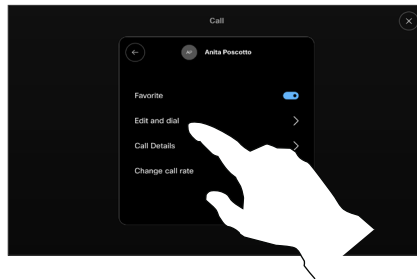
[通話 (Call)] ボタンをタップします。

2



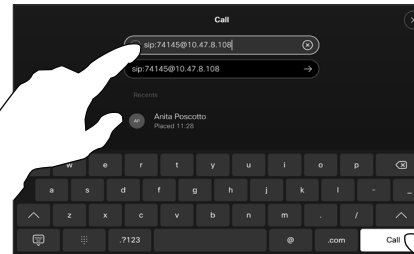
[検索 (Search)] フィールドをタップするか、リストをスクロールします。連絡先をタップして連絡先カードを開き、[詳細 (...)] (More (...)) をタップします。

3



[編集 (Edit)] をタップしてダイヤルします。

4



編集をしたら、緑色の [通話 (Call)] ボタンをタップして発信します。

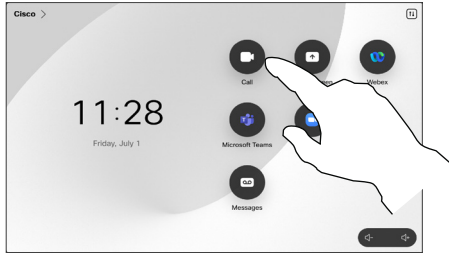
## エントリの編集について

通話発信前に、[連絡先(Contact)] リストのいずれかのエント리를編集する必要がある場合があります。プレフィックス、サフィックスを追加するか、エント리를変更する必要がある場合があります。

## ビデオ通話

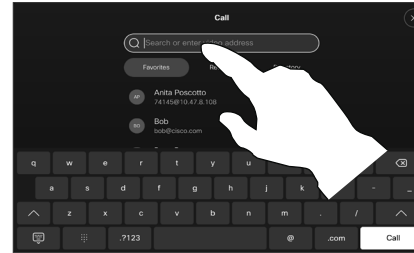
# 名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する

1



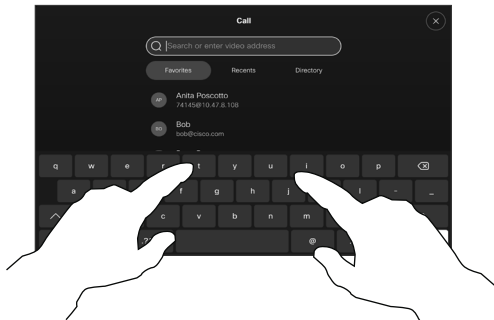
[通話 (Call) ] ボタンをタップします。

2



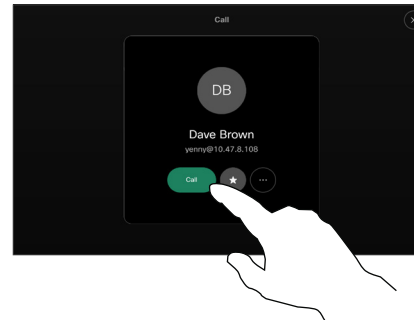
[検索 (Search) ] フィールドをタップします。

3



名前、電話番号、またはアドレスを入力します。入力すると、一致する可能性のある結果が表示されます。正確なエントリがリストに表示されたらそれをタップします。表示されない場合は入力を続けます。

4



連絡先が見つかったら、名前をタップし、緑色の [通話 (Call) ] ボタンをタップします。

## 発信について

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して、名前、アドレス、または電話番号を入力します。

これまでの発信先と着信元は、すべて [履歴 (Recents)] リストに表示されます。そこから任意のエントリを [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

通話中、内線にアクセスしたり暗証番号を提供したりするために、数字の入力が必要になることがあります。

この操作に必要なキーボードを呼び出すには、[タッチトーン (Touch Tones) ] をタップします (このボタンは、発信するとすぐに表示されます)。

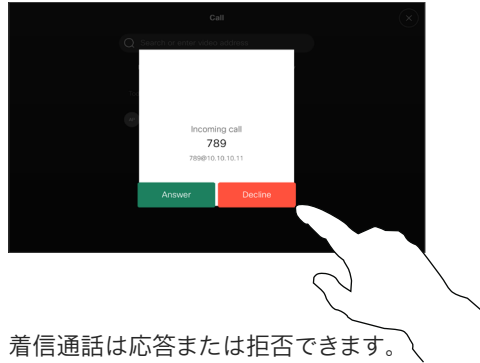
Web インターフェイスでしか [履歴 (Recents)] をクリアできませんのでご注意ください。





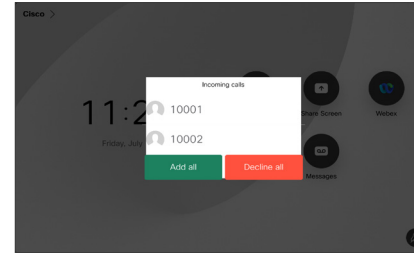
## ビデオ通話 着信通話

1



着信通話は応答または拒否できます。

2



複数の着信通話を受信できるデバイス  
の場合、すべてを追加するか、すべてを  
拒否するかを選択できます。

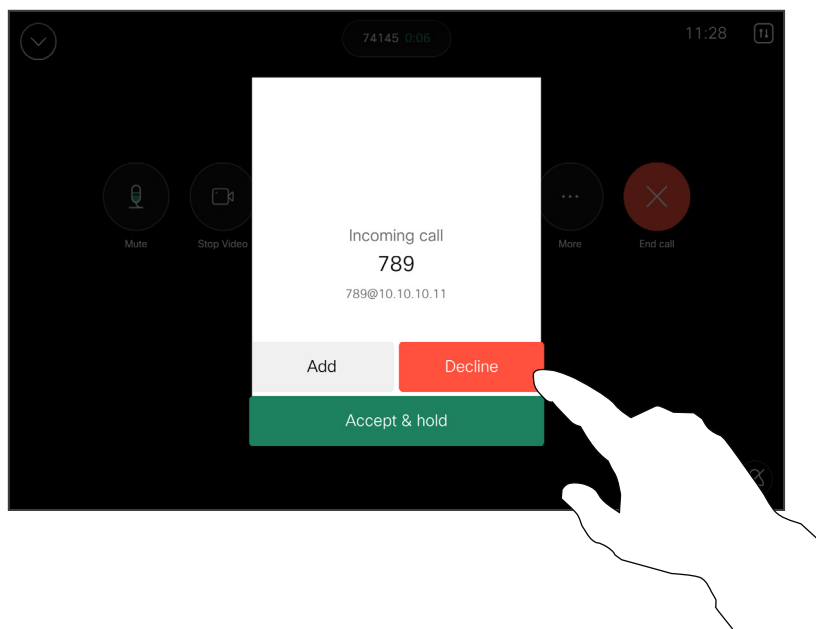
### 着信があった場合

- 着信があった場合は、その通話に  
応答するか、拒否するか、無視する  
ことができます。
- 通話を拒否すると、話し中である  
という情報が発信者に送られます。
- 通話を無視すると、発信者は相手  
が不在である（相手が通話に  
応答しなかった）と認識します。
- ビデオインフラストラクチャに  
よっては、複数の着信通話を受  
信できます。



ビデオ通話

## 通話中に別の通話を受信する



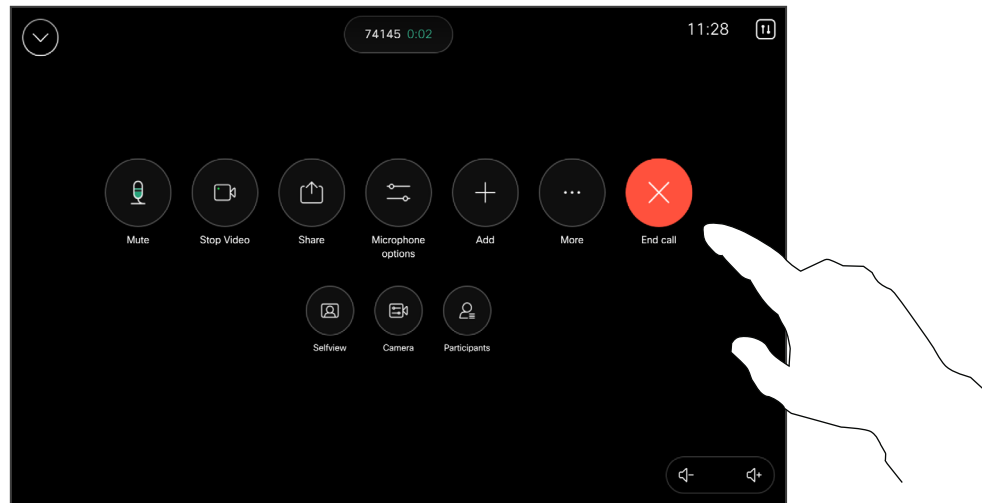
### 着信があった場合

すでに通話中の場合でも、デバイスで別の着信通話を受け入れる機能が有効になっていれば、着信に応答できます。



ビデオ通話

## 通話を切断する



自分だけ会議から退出するには呼制御を開いて [通話終了 (End Call) ] をタップします。

### 通話の切断について

通話中に [通話終了 (End Call) ] をタップすると、通話が切断されます。2 人で通話をしている場合、これで通話が終了します。

複数の参加者がいる電話会議では、[通話終了 (End Call) ] をタップすると、自分が通常の参加者である場合は自分だけが退出します。

ただし、自分が会議のホストである場合、[通話終了 (End Call) ] をタップすると、会議のタイプによっては会議が終了します。

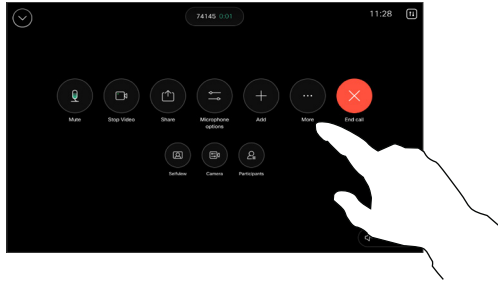




## ビデオ通話

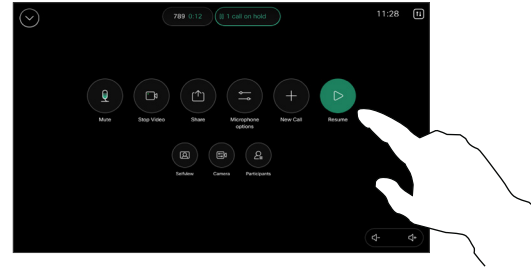
# 通話を保留にし、保留中の通話を再開する

1



通話中に、呼制御を開き、[詳細 (More) ] ボタンをタップします。次に、[保留 (Hold) ] をタップします。

2



[再開 (Resume) ] をタップして通話に戻ります。

## 保留について

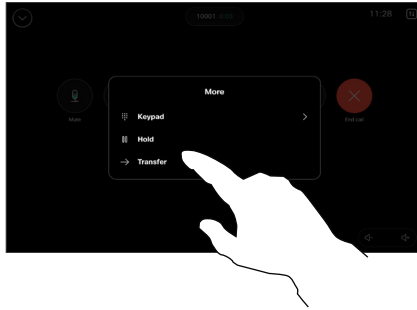
通常、相手を保留にする操作は、相手を他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、他の人に相談する必要がある場合や、ビデオ送信の停止も兼ねたミュートの代わりとして使用することもできます。



## ビデオ通話

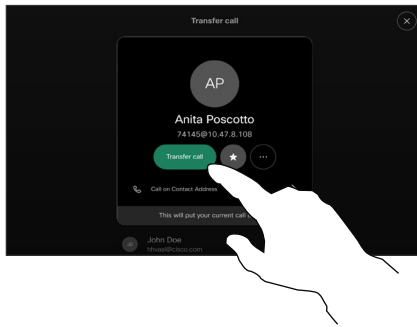
# 応答中の通話を転送する

1



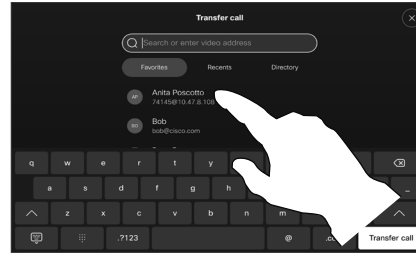
通話中に、呼制御を開き、[詳細 (More) ] ボタンをタップします。 [転送 (Transfer) ] をタップします。現在の通話が保留になります。

3



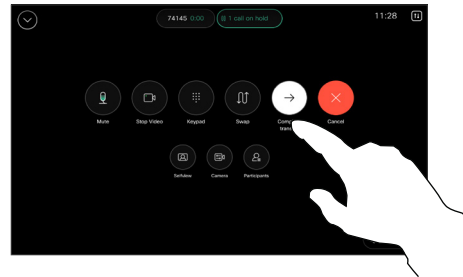
緑色の [通話を転送 (Transfer call) ] ボタンをタップします。発信先の相手と話して、転送してよいかどうかを確認します。転送先は、保留のままになっています。

2



連絡先を検索して選択します。

4



[転送完了 (Complete Transfer) ] をタップします。

## 転送について

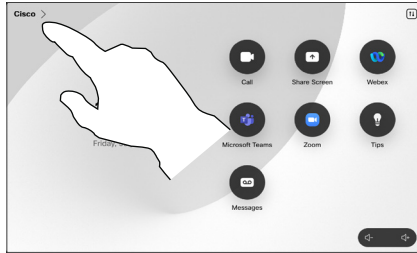
応答中の通話は、別の人に転送することができます。転送時には常に相談が可能です。つまり、実際に転送する前に転送先の人と話することができます。



## ビデオ通話

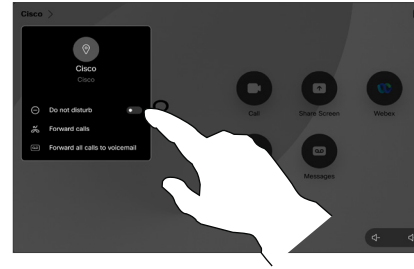
# 応答不可を有効にする

1



タッチコントローラのホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップします。

2



[応答不可 (Do not disturb)] をオンにします。非アクティブにするには、オフに切り替えます。

## 応答不可について

着信通話に回答しないようにデバイスを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信できます。

この機能には、ビデオサポートチームによってタイムアウトが設定されている場合があります。タイムアウト後、デバイスは通常どおり着信通話に回答するようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオサポートチームは、表示されるメニューやオプションへのアクセスを無効にする場合があります。

USB カメラとしての Room Kit Mini の使用。Room Kit Mini を登録している場合、PC やサードパーティのビデオクライアントで USB カメラとして使用できます。通話の重複による競合を避けるために、デバイスは自動的に [応答不可 (Do Not Disturb)] モードになります。この場合、[応答不可 (Do Not Disturb)] モードをオフにすることはできません。

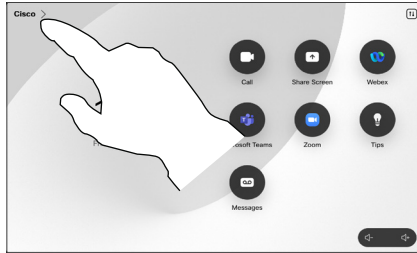
Room Kit Mini を未登録デバイスとして使用する場合は、通話の重複が発生しないため、上記は適用されません。



## ビデオ通話

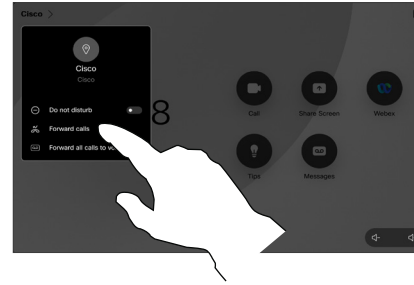
# すべての通話を自動転送する

1



タッチコントローラのホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップします。

2



[通話の転送... (Forward calls...)] をタップします。連絡先を選択し、[転送 (Forward)] をタップします。通話の転送を停止するには、同じメニューを開き、[転送の停止 (Stop forwarding)] を選択します。

## 通話転送について

ビデオサポートチームは、すべての着信通話を転送するオプションを有効にしている場合があります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

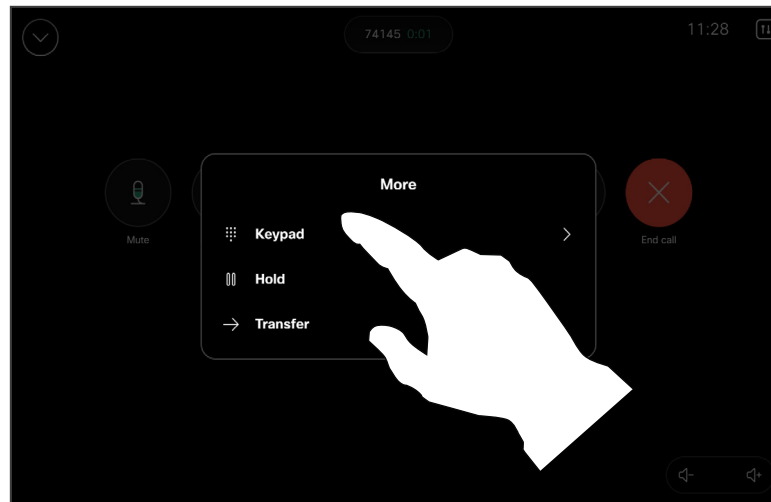
[すべての通話を転送 (Forward all calls)] をタップすると、通常の [通話 (Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

ビデオサポートチームは、表示されるメニューやオプションへのアクセスを無効にする場合があります。



ビデオ通話

## 通話中にキーパッドを開く



通話中に、呼制御を開き、[詳細 (More) ] ボタンをタップします。その後、[キーパッド (Keypad) ] をタップします。

## 通話中にキーパッドを使用する

通話中、内線にかけるか、何か(暗証番号など)を入力するためにダイヤル操作が要求されることがあります。

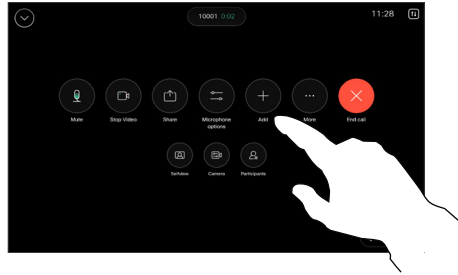
数字を入力するには、タッチコントローラのキーパッドを開きます。



## ビデオ通話

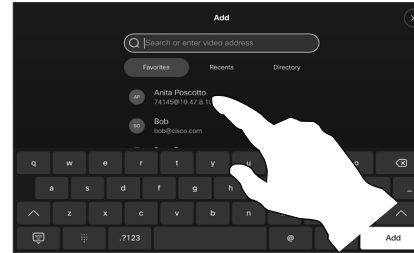
# 進行中の通話に参加者を追加する

1



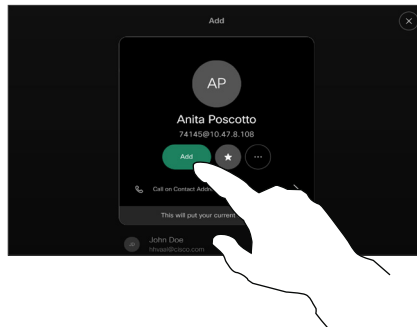
通話中に呼制御を開き、[追加 (Add)] をタップします。

2



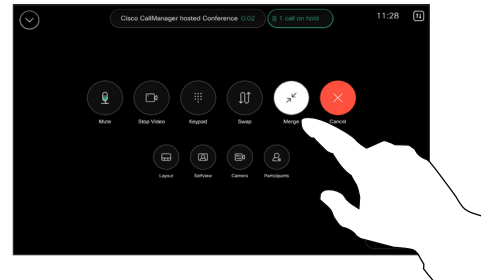
次に呼び出す相手を見つけます。

3



連絡先カードで [追加 (Add)] をタップします。

4



呼制御で [マージ (Merge)] をタップして、新しい通話を既存の通話に追加します。これで、電話会議が設定されます。

この手順は、ビデオインフラストラクチャで許可されている人数まで繰り返すことができます。

## ビデオ会議について

ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

ビデオデバイスでサポートされる参加者の最大人数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオサポートチームにお問い合わせください。

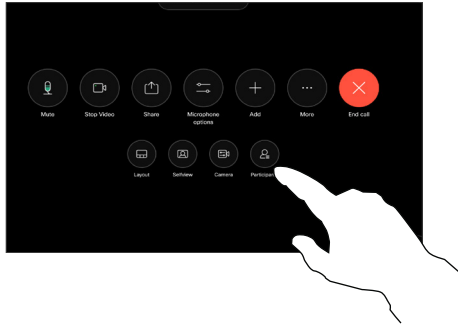
ビデオ会議を開始する場合は、参加者を一人ずつ呼び出す必要があります。



## ビデオ通話

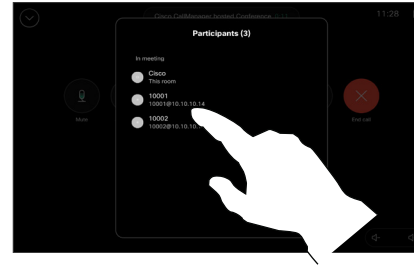
# 会議から参加者を退出させる

1



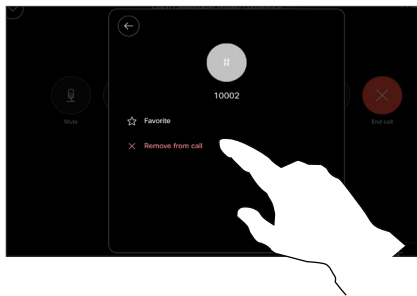
通話中に、呼制御を開き、[参加者 (Participants) ] ボタンをタップします。

2



会議から退出させる参加者をタップします。

3



[会議から退出 (Remove from call) ] をタップします。

## ビデオ会議について

デバイスからビデオ会議を実行する機能はオプションであり、デバイスによっては使用できない場合があります。

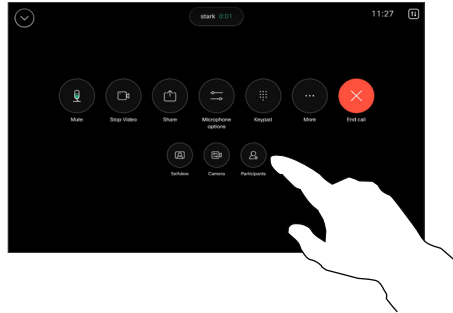
会議から他の参加者を退出させるには、会議のホストである必要があります。



## ビデオ通話

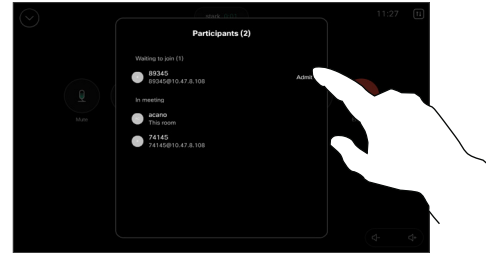
# 会議に参加者を追加する

1



誰かがロビーで待っている場合、会議中に通知されます。呼制御を開き、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



[承認 (Admit)] をタップして待機している参加者を会議に参加させます。

## 参加者の承認について

ロックされている CMS 会議では、参加者を参加者リストから会議に参加させることができます。

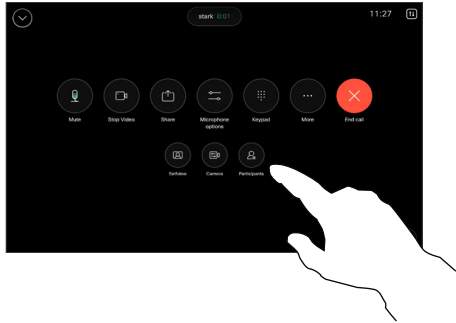




## ビデオ通話

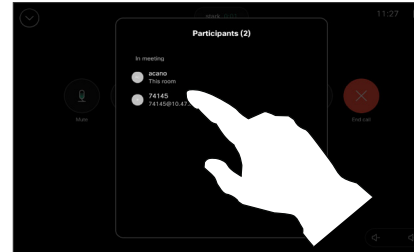
# 会議中にスピーカーをピン留めする

1



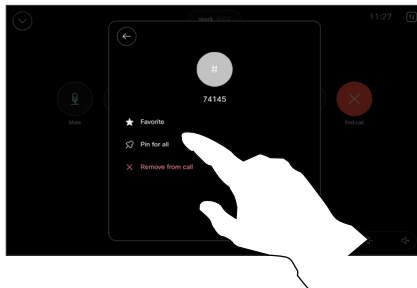
通話中に、呼制御を開き、[参加者 (Participants) ] ボタンをタップします。

2



ピン留めする参加者をタップします。

3



[全員をピン留め (Pin for all) ] をタップします。

## スピーカーのピン留めについて

CMS 会議では、会議参加者をピン留めして、すべての会議参加者にとって重要として表示できます。このようにして、参加者または会議室は、発言中のスピーカーでなくても、全員の画面に表示されます。

スピーカーをピン留めすると、ピン留めされたことを示す通知が画面に表示されます。同様に、ピン留めを解除すると、ピン留めが解除されたことを示す通知が表示されます。

音声のみの参加者をピン留めした場合は、レイアウトに変化はありません。

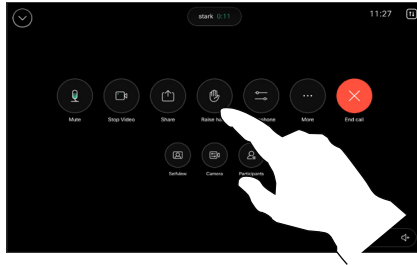
デフォルトでは、ホストのみが全員をピン留めできますが、会議の主催者は会議設定でこれを変更できます。

CMS 会議でのみ、会議全体でスピーカーをピン留めできます。



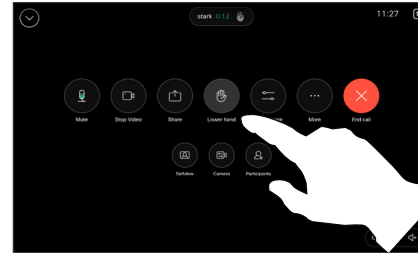
## ビデオ通話 会議中に挙手する

1



会議中に、呼制御を開き、[挙手 (Raise hand) ] ボタンをタップします。

2



手を下げるには、[手を下げる (Lower hand) ] ボタンをタップします。これにより、名前の横にある参加者リストからもアイコンが削除されます。

## 挙手について

[挙手(Raise Hand)] ボタンを使用すると、会話を中断することなく、質問やコメントがあることを他の人に知らせることができます。

会議内のホストと他の参加者の両方の画面に、誰かが手を挙げたという旨の通知が表示されます。最初に挙手すると、フルネームが記載された通知が表示されます。

その後、[挙手(Raise Hand)] アイコンは、何人が手を挙げたかを示します。

参加者リストを開くと、手を挙げた参加者を確認できます。これらは時系列順にリストの一番上に表示されるため、誰が最初に手を挙げたかを簡単に確認できます。

[挙手(Raise Hand)] は、2 名以上の参加者がいる CMS 会議でのみ使用できます。

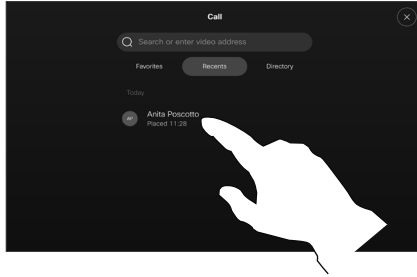


## ビデオ通話

# 最近の通話詳細を検索する



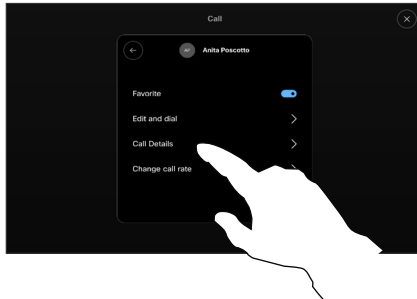
1



[通話 (Call)] をタップし、[履歴 (Recents)] リストでエントリを選択します。



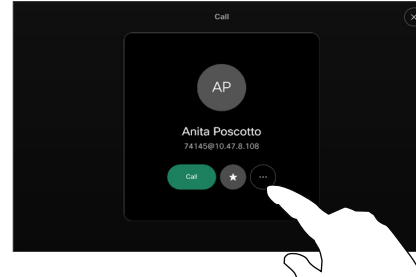
3



次の画面で、[通話の詳細 (Call details)] をタップします。

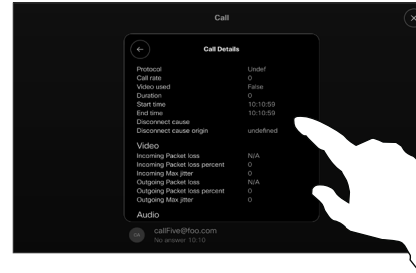


2



[詳細 (More)] をタップします。

4



下方向にスクロールして通話の詳細を確認します。戻る矢印をタップして、詳細画面を終了します。

## 通話の詳細について

最近の通話のトラブルシューティングが必要な場合は、最近の通話リストから通話の詳細を検索します。



# Cisco Proximity



Cisco Proximity

## Cisco Proximity の超音波信号



シスコのビデオデバイスは、[Proximity] 機能の一部として超音波を発生します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあるものの超音波にさらされています。



人によっては空気中を伝達する超音波によって何らかの影響を感じる場合もありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波照射の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される 20 kHz あたりの周波数帯で検出される 75 dB の音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。



これについては、Health Canada のガイドラインである [http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code\\_24-securite/index-eng.php#a2.2.2](http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2) を参照してください。

120 dB 未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないとこのガイドラインでは述べられています。



グループで使用するスピーカー搭載型のシスコのビデオデバイスでは、スピーカーから 50 cm 以上の距離の場合、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。



実用時、使用者の耳に届く音圧レベルはこれら最大レベルよりはるかに低くなります。これは、スピーカーの指向性や距離による減衰に加え、一般的な部屋では高周波の高域成分が吸収されるためです。そのレベルは、会議室における一般的な背景雑音・環境雑音レベルから、いわゆる通常の会話レベルまでの範囲となります。



したがって継続的に近接信号を受けても、安全であると考えられます。その近接信号を知覚し、影響を受ける人はほとんどいません。しかし、高周波数に対して鋭敏な聴覚を持っている人も若干おり、スピーカーの目の前または近くで聞きとれるケースもあります。



犬のような動物は聴覚の周波数の範囲が非常に広いので、近接信号を聞きとれます。



しかし、近接信号の影響は音圧レベルに左右されます。また、犬が聞きとる音圧レベルの範囲も人間と比べて顕著な差があるわけではありません。20 kHz での犬の聴覚しきい値は、0 ~ 10 dB 程度になります。これは、人間の耳が最も敏感となる周波数範囲におけるしきい値と同じ値です。

近接信号が犬にもたらす影響について、シスコではテストや認定などを行っていません。これは、制限レベルにより、近接信号がはっきりと聞き取れる状況は、犬にとって煩わしい状況にはならないと考えられるためです。

通常の背景雑音や通常の会話と同等レベルの超音波は、オフィスや会議室にいる犬に影響を与えます。この機能を持つ当社の製品において、近接信号によって動物に悪影響を及ぼすといった報告は何年間もありません。

ただし、超音波を利用して犬を撃退する機器が実際に存在しているので、超音波が犬に影響するのではないかと考えるのももなことです。通常このような機器は、犬に対して不快ではあるが有害な超音波を出すものではないとみられています。シスコは犬撃退用途の機器の設計については専門外です。しかし、その手の機器の仕様分析では、概して音圧レベルが 100 dB 以上であることがわかっています。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製スピーカーデバイスと組み合わせて使用するソリューションの場合、シスコ側で超音波の音圧レベルを制御することはできません。所定のスピーカー感度レベルと周波数特性は、ほとんどの場合 75 dB の制限を下回るレベルになります。しかし、過剰な外部増幅が行われたり、スピーカーシステムの高周波応答が強調されたりすると、制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

## Cisco Proximity について

[Cisco Proximity] 機能を使用すると、コンピュータからシスコのデバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスで通話を制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション(無料)をダウンロードする必要があります。

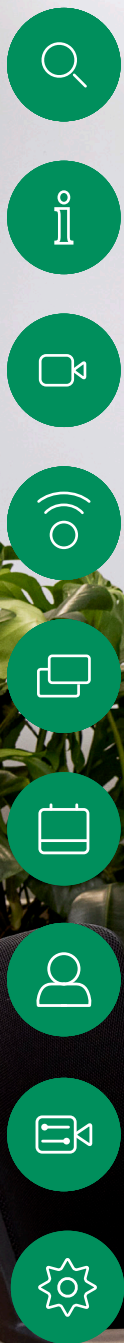
Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、機能を有効にしていない、一部の利用できる機能を有効にしている、またはすべての利用できる機能を有効にしている場合があります。

Proximity は超音波を使用してユーザーを接続します(左側の詳細を参照)。パソコン、電話機、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

ドアが閉じている場合、会議室の外では Proximity は機能しません。ビデオエンドポイントの近くで Proximity を使用する必要があります。

プライバシーを確保するために、会議室のドアを閉じて、盗聴の可能性を防ぎます。

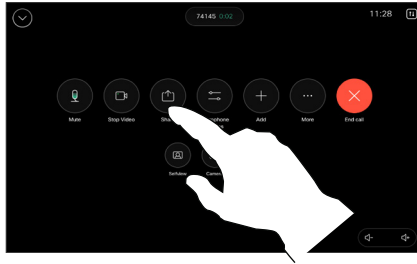


コンテンツ共有

## コンテンツ共有

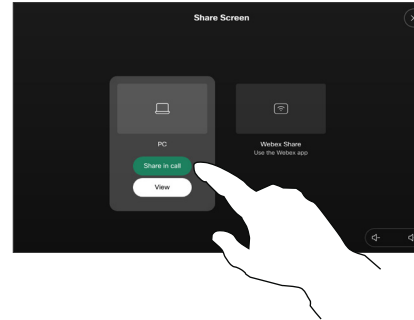
# 通話中にコンテンツを共有する

1



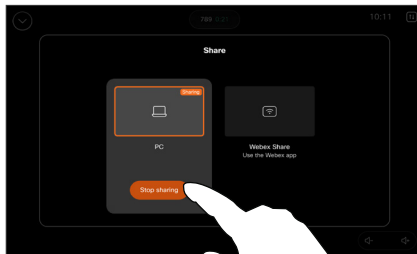
ケーブルを使用している場合、ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。呼制御を開き、[共有 (Share) ] ボタンをタップします。

2



送信元を選択します。[表示 (View) ] をタップしてプレビューを表示します。まだ誰もコンピュータ画面を見ることはできません。準備ができたなら [共有 (Share) ] をタップします。または、[通話で共有 (Share in Call) ] をタップして、すぐに共有します。

3



コンテンツの共有を停止するには、[共有を停止 (Stop sharing) ] をタップします。

## コンテンツ共有について

USB-C または HDMI ケーブルを使用して PC をデバイスに接続することで、シスコデバイス上のコンテンツを共有します。または、Webex アプリ、Cisco Proximity、Miracast®、または AirPlay とワイヤレスで共有できます。

ケーブルを使用して非通話時に共有するには、送信元を接続し、スイッチがオンになっていることを確認して、[画面を共有 (Share Screen) ] をタップします。コンピュータの画面がデバイスに表示されます。[共有の停止 (Stop Sharing) ] をタップしてセッションを終了するか、送信元を切断します。

Miracast が有効になっている場合、クライアント無しでラップトップからシスコデバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。通話中も、通話していないときもコンテンツを共有できます。通話中に共有するには、先に通話を開始します。

AirPlay が有効の場合、iPhone、iPad、Mac を接続すると、画面の共有、共同作業、音声やビデオコンテンツの再生などをワイヤレスで行うことができます。

ヒント： マルチスクリーンデバイスでは、スクリーンと同じ数だけ独立したプレゼンテーションを表示できます。これは非通話時のみ可能です。最初に接続するプレゼンテーションはワイヤレスで接続し、その後でケーブルを使用することをお勧めします。逆の順番で接続すると、最初の接続が切断されることがあります。

注： デバイスの設定によっては、ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP で保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV、HD TV デコーダなどを通じてビデオを視聴できるようになっている場合があります。この機能は通話外でのみ有効です。通話中にこの特定のビデオコネクタを介してコンテンツを共有しようとする場合、コンテンツ共有に割り当てられた画面の一部が黒くなり、HDCP 体制が維持されます。この動作は、コンテンツが HDCP で保護されているかどうかにかかわらず、通話中にこの入力コネクタを使用し共有しようとしたすべてのコンテンツに適用されます。





コンテンツ共有

## Webex アプリケーションでコンテンツを共有する

Windows および Mac ラップトップ

1. Webex アプリケーションでデバイス名をクリックし、[デバイスで共有 (Share on device)] をクリックします。
2. 共有する画面またはアプリケーションを選択します。
3. 画面の上部に共有対象のプレビューが表示されます。画面上部のコントロールバーで下矢印をクリックします。
4. 完了したら、[共有の停止 (Stop Sharing)] をクリックします。



### Webex アプリケーションについて

超音波を有効にすると、同じ部屋に入るとすぐにデバイスに自動的に接続できます。これらのデバイスを使用すると、同じ部屋にいる人とワイヤレスでコンテンツを共有できます。

モバイルの Webex アプリケーションでコンテンツを共有する場合は、クラウドペアリングが必要です。詳細については、[こちらの項目](#)を参照してください。





コンテンツ共有

## Miracast® でコンテンツを共有

Windows ラップトップの場合

1. ラップトップで **Windows + K** キーを押すか、[アクションセンター (Action Center)] アイコンをクリックし、[接続 (Connect)] をクリックします。Windows が Miracast レシーバをスキャンします。
2. キャスト先の Room Series のデバイスをクリックします。デバイスの画面に個人識別番号が表示されます。
3. ラップトップで個人識別番号を入力し、[接続 (Connect)] をクリックします。
  - 通話中に自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中に共有をキャンセルできます。
  - 非通話時は、すぐに共有が開始されます。
4. 共有が開始されます。

Android スマートフォンの場合

1. Samsung デバイスで [設定 (Settings)] メニューを開き、[Smart View] または [Dex] を選択します。他の Android デバイスでは名前が異なる場合がありますのでご注意ください。
2. キャスト先の Room Series のデバイスをクリックします。デバイスの画面に個人識別番号が表示されます。
3. Android デバイスで個人識別番号を入力します。
4. [接続 (Connect)] をタップします。
  - 通話中に自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中に共有をキャンセルできます。
  - 非通話時は、すぐに共有が開始されます。
5. 共有が開始されます。



## Miracast について

Miracast は Wi-Fi Direct を使用してラップトップからシスコデバイスへの直接ネットワーク接続を確立し、ワイヤレスでコンテンツを共有します。通話中も、通話していないときもコンテンツを共有できます。通話中に共有するには、先に通話を開始します。アクティブな共有中に通話を発信または着信すると、Miracast セッションが切断されます。詳細については、[こちらの項目](#)を参照してください。



コンテンツ共有

## Airplay® でコンテンツを共有

iPhone、iPad、Mac の場合

1. iPhone、iPad、Mac で [コントロールセンター (Control Center)] を開きます。[スクリーンミラーリング (Screen Mirroring)] を選択します。
2. キャスト先の Room Series のデバイスを選択します。デバイスの画面にパスコードが表示されます。
3. Apple デバイスのパスコードを入力し、[OK] を選択します。
4. 共有が開始されます。

ホーム画面を下から上にスワイプすると [タスクスイッチャ (Task Switcher)] が開き、別のアプリに移動できます。これで共有が終了します。



## Airplay について

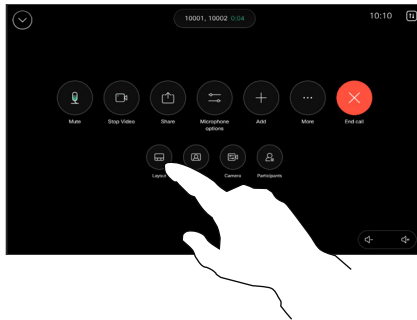
シスコのデバイスは AirPlay をサポートし、使い慣れたシンプルな共有エクスペリエンスを提供します。iPhone、iPad、Mac を接続して、画面の共有、共同作業、オーディオやビデオコンテンツの再生などをワイヤレスで簡単に行うことができます。詳細については、[こちらの項目](#)を参照してください。



## コンテンツ共有

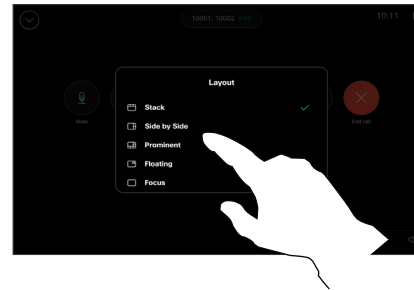
# 通話中に画面レイアウトを変更する

1



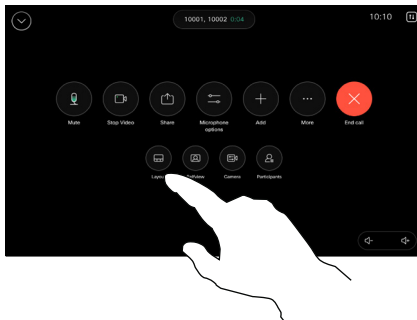
通話中に、呼制御を開き、[レイアウト (Layout)] ボタンをタップします。

2



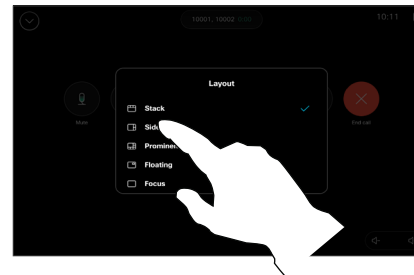
開いたメニューから目的のレイアウトを選択します。

1



通話中に、呼制御を開き、[レイアウト (Layout)] ボタンをタップします。

2



開いたメニューから目的のレイアウトを選択します。

## プレゼンテーションを共有する場合

誰かがコンテンツを共有しているかどうかにかかわらず、通話中に画面レイアウトを変更できます。使用可能なレイアウトは、デバイスと画面数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

**スタック:** プレゼンターと最大 6 人の参加者がコンテンツの上にスタックされます。

**フローティング:** プレゼンターがコンテンツの上にフローティングされます。

**横並び:** プレゼンターとコンテンツが画面を共有します。

**フォーカス:** コンテンツが画面全体に表示されます。

## 通話で利用可能なレイアウト

使用可能なレイアウトは、デバイスと画面数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

**グリッド:** 最大 5 人の参加者をグリッド表示します。グリッドは、単一画面のデフォルトレイアウトです。

**スタック:** 発言中のスピーカーの上に参加者のサムネイルが最大 6 枚表示されます。

**プロミナント:** 発言中のスピーカーを画面の左上に表示し、その他参加者を画面したと右側に表示します。

**フォーカス:** 発言中のスピーカーが画面全体に表示されます。

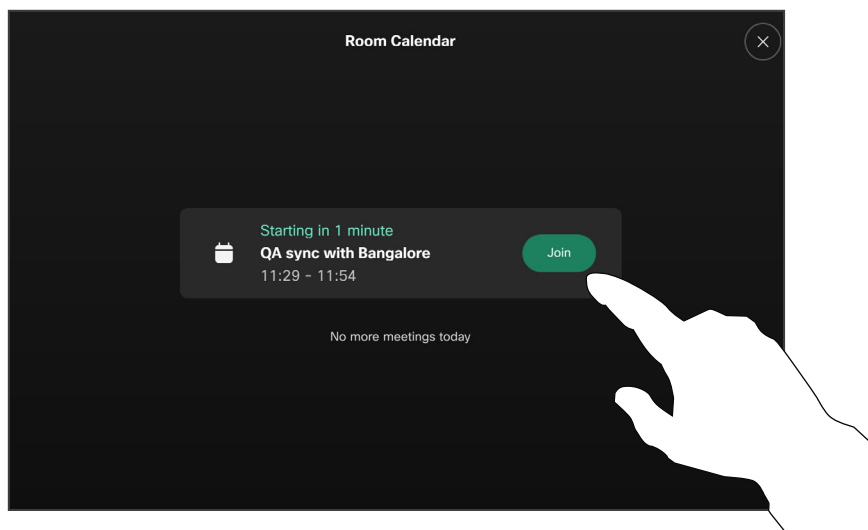


# スケジュールされた会議



スケジュールされた会議

## スケジュールされた会議に参加する



会議が開始間近になると、会議への参加を促すメッセージが表示されます。[参加 (Join) ] をタップします。

### 会議に参加する

ビデオデバイスは、ビデオ会議をスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。左の図のように、予定されている会議が表示されます。スケジュールされた会議がデバイス画面に表示されると、デバイスはスタンバイを終了します。

会議に参加するには [参加 (Join) ] をタップします。

会議は開始時刻の 5 分前に表示されます。会議がすでに開始されている場合でも、いつでも会議に参加できます。



スケジュールされた会議

## Webex 会議に参加する



[Webex] をタップします。招待で受け取った会議番号を入力し、[参加 (Join)] をタップします。



スケジュールされた会議

## サードパーティの会議に参加する



## 会議に参加する

デバイスは、Zoom または Microsoft Teams に接続された管理システムに接続されている場合があります。



[Microsoft Teams] または [Zoom] をタップします。  
招待で受け取った会議番号を入力し、[参加 (Join)]  
をタップします。



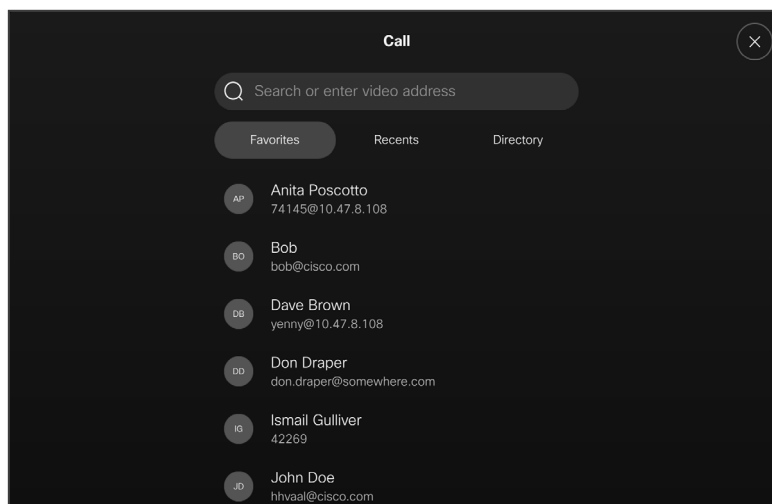
問い合わせ先





問い合わせ先

## お気に入り、履歴、ディレクトリ



### 連絡先リストについて

[通話 (Call)] ボタンをタップして、連絡先リストを開きます。連絡先リストは、次の 3 つで構成されています。

お気に入り。これらの連絡先は自分で設定します。頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要が生じる連絡先を登録します。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームがデバイスにインストールする社内ディレクトリです。

[履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

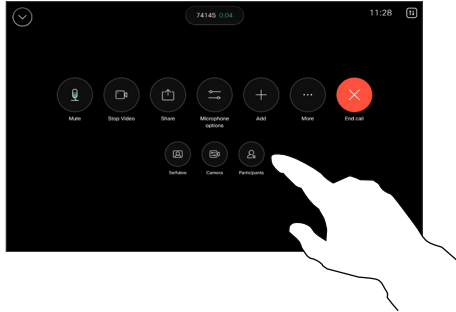
[履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。



連絡先

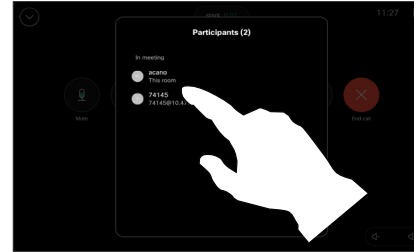
## 通話中に誰かをお気に入りに登録する

1



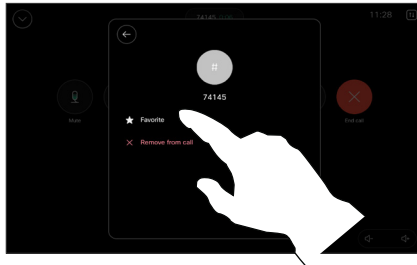
通話中に、呼制御を開き、[参加者 (Participants) ] ボタンをタップします。

2



[お気に入り(Favorites)] に追加する参加者をタップします。

3



[お気に入り (Favorite) ] をタップします。戻る矢印をタップし、[X] をタップして呼制御に戻ります。

同じ方法で、[お気に入り(Favorites)] から人を削除します。

## お気に入りについて

[お気に入り(Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

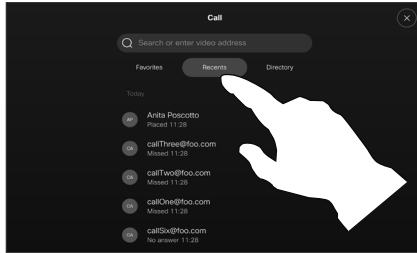
[お気に入り(Favorites)] は、[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



## 連絡先

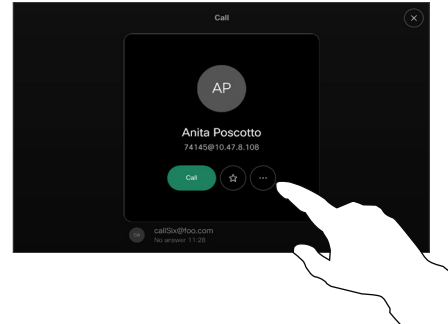
# 非通話時に誰かをお気に入りに登録する

1



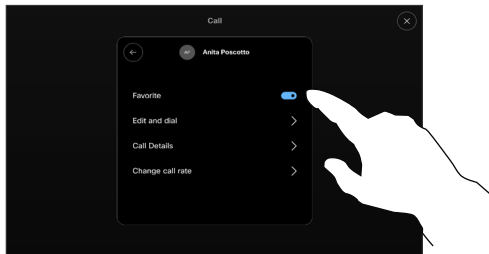
通話中でないときに、[通話 (Call)] をタップして連絡先リストを開きます。[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。[お気に入り (Favorites)] に登録する人をタップします。

2



連絡先カードの [スター (Star)] ボタンをタップすると、すぐにその人をお気に入りに登録できます。または、[詳細 (More)] ボタンをタップします。

3



[詳細 (More)] をタップして連絡先カードを開いた場合は、ここで [お気に入り (Favorite)] のオンとオフを切り替えることもできます。戻る矢印をタップし、[X] をタップして終了します。

[お気に入り (Favorite)] からエントリを削除するには、この手順を繰り返します。

## お気に入りについて

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

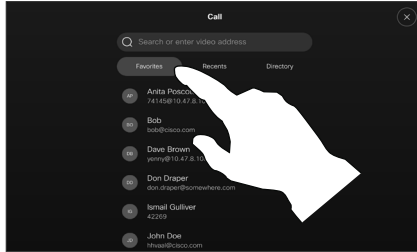
[お気に入り (Favorites)] は、[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



連絡先

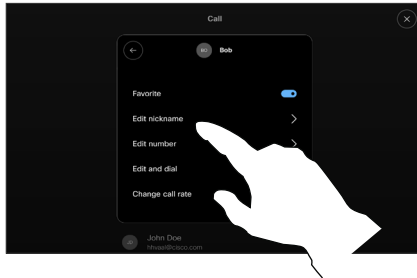
## お気に入りを編集する

1



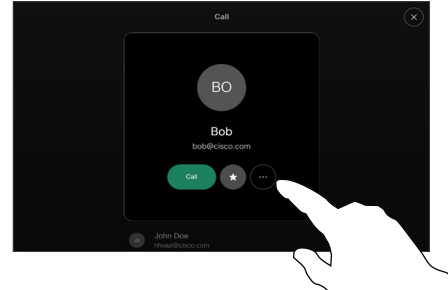
[通話 (Call)] をタップして連絡先リストを開きます。次に、[お気に入り (Favorite)] をタップします。

3



編集する内容を選択し、変更を加えます。キーボードの [保存 (Save)] をタップします。次に、連絡先カードの戻る矢印をタップして終了します。

2



編集する人をタップし、連絡先カードで [詳細 (More)] をタップします。

## お気に入りについて

既存のお気に入りの連絡先はいつでも更新できます。



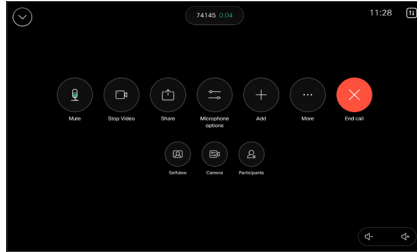
# カメラ制御



## カメラ制御

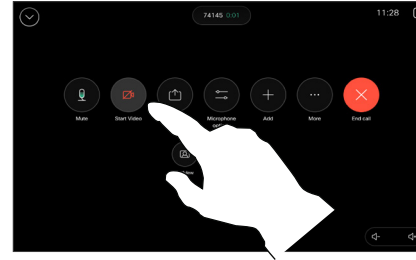
# 通話中にカメラをオン/オフに切り替える

1



通話中に呼制御を開きます。

2



[ビデオの停止 (Stop Video) ] ボタンをタップします。[ビデオの開始 (Start Video) ] をタップして、発信ビデオを再びオンにします。

## ビデオのオフについて

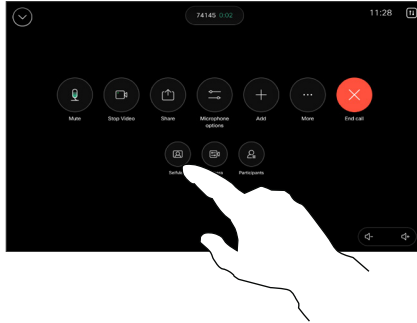
カメラを機械的にブロックすることができないデバイスで、カメラからのビデオ送信を制御します。



## カメラ制御

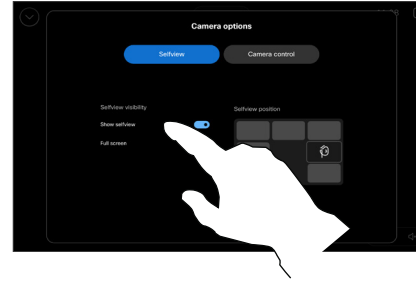
# 通話中および通話外のセルフビューにアクセスして調整する

1



通話中に、呼び制御を開きます。[セルフビュー (Selfview)] をタップします。

2



可視性を設定したり、移動したり、セルフビューを全画面表示に変更したりするオプションが表示されます。[カメラオプション(Camera Options)] 画面の外側をタップして終了します。

## セルフビューについて

セルフビューは、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見たい適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中と非通話時の両方で、画面にセルフビューを表示、調整、および移動できます。

コントロールパネルを開くと、いつでもセルフビューを確認できます。カメラが開いているかオンになっている限り、デバイスの画面にセルフビューが表示されます。コントローラの [カメラ (Camera)] をタップし、[セルフビュー (Selfview)] を選択します。ここでは、次のことができます。

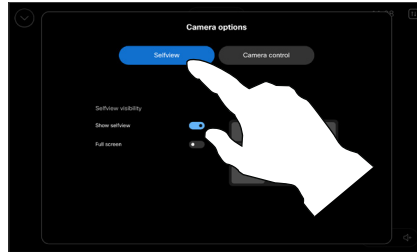
- 全画面表示の切り替え
- セルフビューの可視性を [非表示 (Hide)]、[通話中に表示 (Show in call)]、または [常に表示 (Always show)] に設定。
- タッチコントローラ画面に表示される定義済みの位置のいずれかをタップして、セルフビューの位置を調整。



## カメラ制御

# セルフビューを移動する

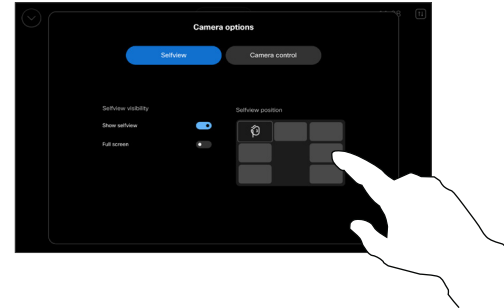
1



通話中に、呼制御を開き、[セルフビュー (Selfview)] をタップします。

または、コントロールパネルを開き、[カメラ (Camera)] をタップして、[セルフビュー (Selfview)] を選択します。

2



タッチコントローラ画面に表示される定義済みの位置のいずれかをタップします。

[カメラオプション (Camera Options)] 画面の外側をタップして終了します。

## セルフビューについて

セルフビューは、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見たい適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中と非通話時の両方で、画面にセルフビューを表示、調整、および移動できます。

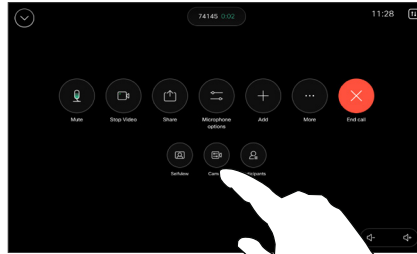




## カメラ制御

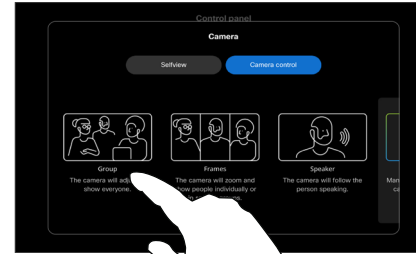
# 自動カメラモードを選択する

1



通話中に呼制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて【カメラ (Camera)】ボタンをタップします。

2



カメラモードを選択します。【カメラオプション (Camera Options)】画面の外側をタップして終了します。

## カメラモードについて

自動カメラモードを選択すると、会議中にカメラを手動で制御することなく、デバイスと会議に最適な表示を取得できます。通話中かどうかにかかわらず、カメラモードを変更できます。

いくつかの異なるモードから選択できます。

- **グループ。**全員が映るようにカメラが調整されます。
- **フレーム。**カメラがズームして、個人または少人数のグループを表示します。
- **スピーカー。**カメラは発言者を追跡します。スピーカートラッキングが機能する最大距離は 7.5 メートルです。

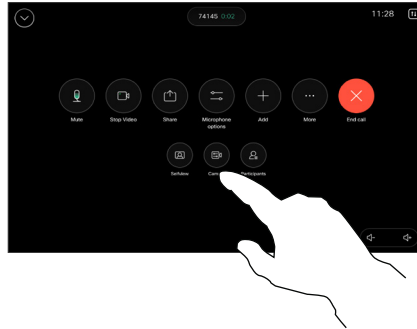
使用可能なモードは、デバイスと管理者が設定した構成によって異なります。



## カメラ制御

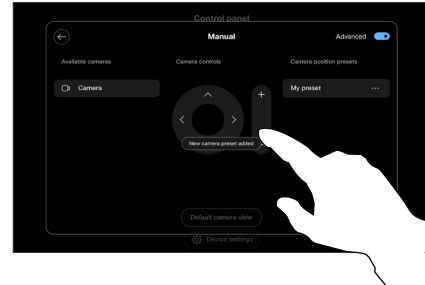
# カメラを手動で制御する

1



通話中に呼制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて【カメラ (Camera)】ボタンをタップします。

2



【カメラを制御(Camera Control)] 画面で【手動 (Manual)】を選択します。カメラ制御を使って、パン、チルト、ズームを調整します。

【カメラオプション(Camera Options)] 画面の外側をタップして終了します。

## カメラの手動制御について

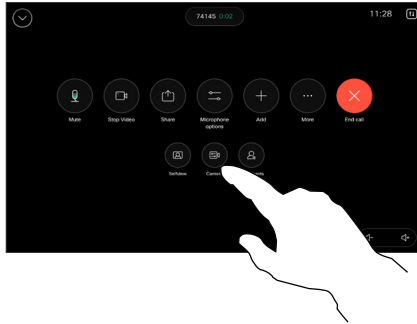
通話中または非通話時、カメラのズーム、パン、およびチルトを手動制御できます。



## カメラ制御

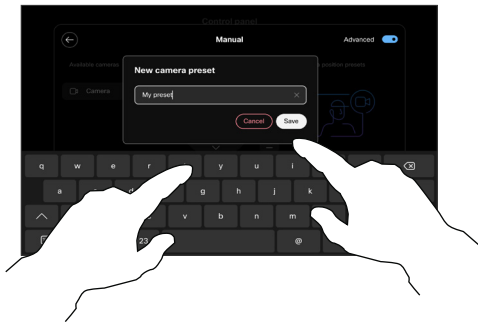
# カメラ位置プリセットを追加する

1



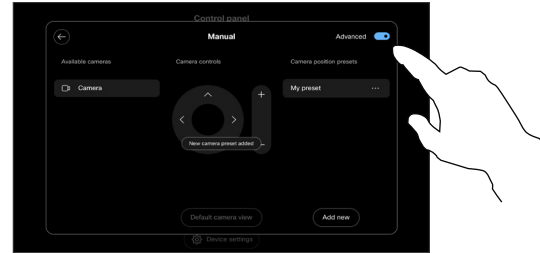
通話中に呼制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて【カメラ (Camera)】ボタンをタップします。【手動 (Manual)】を選択します。

3



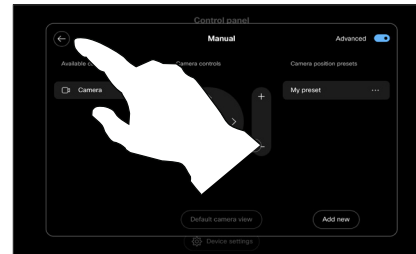
完了したら、【新規追加 (Add new)】をタップします。プリセットに名前を付けて保存します。

2



コントロール画面の右上隅にある【詳細 (Advanced)】に切り替えます。デバイスが複数のカメラを使用している場合は、左側でカメラを選択します。コントロールを使って、パン、チルト、ズームを調整します。

4



カメラの手動制御を終了するには、戻る矢印をタップします。プリセットは、他のカメラモードとともに選択用に表示されます。

【カメラオプション(Camera Options)】画面以外の場所をタップして終了します。

## カメラのプリセットについて

カメラの手動制御では、カメラのズーム、パン、およびチルトを制御できます。カメラを手動調整する際、その表示が気に入った場合は、保存すると再度使用できます。

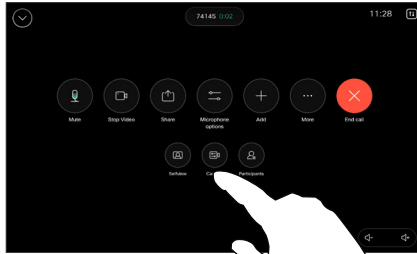
つまり、定義済みのズームとカメラの方向を使用してカスタム表示を作成できます。たとえば、複数の参加者がいる会議用にはズームアウトプリセット、もっと超規模な会議にはズームインプリセットが必要になる場合があります。プリセットは【カメラを制御 (Camera Control)】画面で使用でき、さまざまなタイプの会議で簡単に切り替えることができます。



## カメラ制御

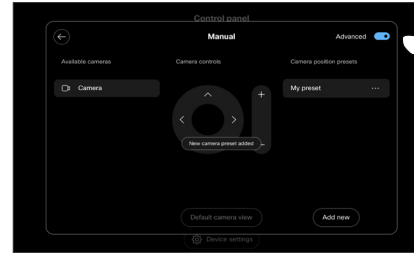
# カメラ位置プリセットを編集する

1



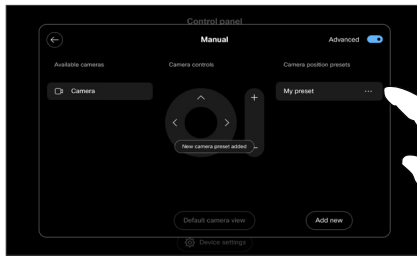
通話中に呼制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて【カメラ (Camera)】ボタンをタップします。【手動 (Manual)】を選択します。

2



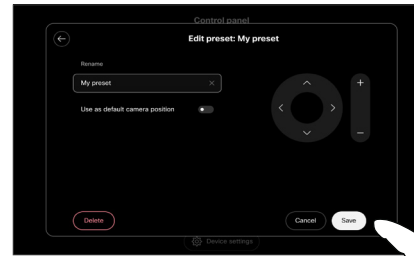
カメラコントロールの右上隅にある【詳細 (Advanced)】に切り替えます。

3



編集するプリセットの横にある【詳細 (...) (More (...))】ボタンをタップします。名前を変更するか、デフォルトとして設定するか、プリセットを調整または削除します。

4



変更を保存します。カメラの手動制御を終了するには、戻る矢印をタップします。編集したプリセットは、他のカメラモードとともに選択用に表示されます。

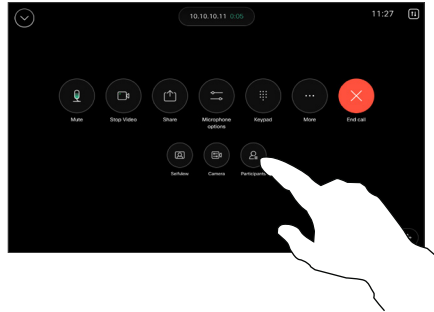
【カメラオプション(Camera Options)】画面以外の場所をタップして終了します。



## カメラ制御

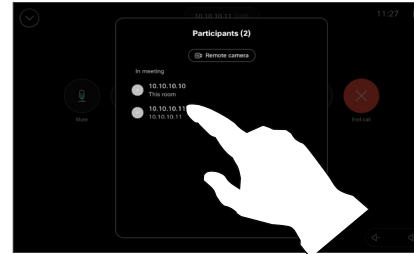
# 遠端カメラを制御する

1



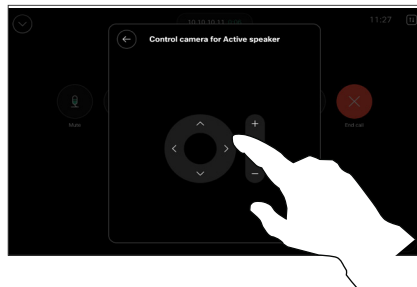
通話中に、呼制御にアクセスし、[参加者 (Participant)] リストを開きます。

2



カメラを制御するカメラを選択します。

3



[カメラを制御(Camera Control)] ボタンを使用して、リモートカメラのチルト、パン、ズームを調整します。終わったらコントロール以外の場所をタップします。

## 遠端カメラについて

他の 1 つ以上のデバイスにリモートで制御可能なカメラが搭載されているビデオ通話に参加している場合は、自分のタッチコントローラからそれらのカメラを制御できます。

相手側デバイスが [スピーカー (Speaker)] モードをアクティブにしている、カメラが発言中のスピーカーを追跡している、または [ベストビュー (Best View)] を使用している場合、カメラをリモートで制御することはできません。

カメラのプリセットにリモートでアクセスすることはできません。



設定



設定

## デバイスの設定と規制情報



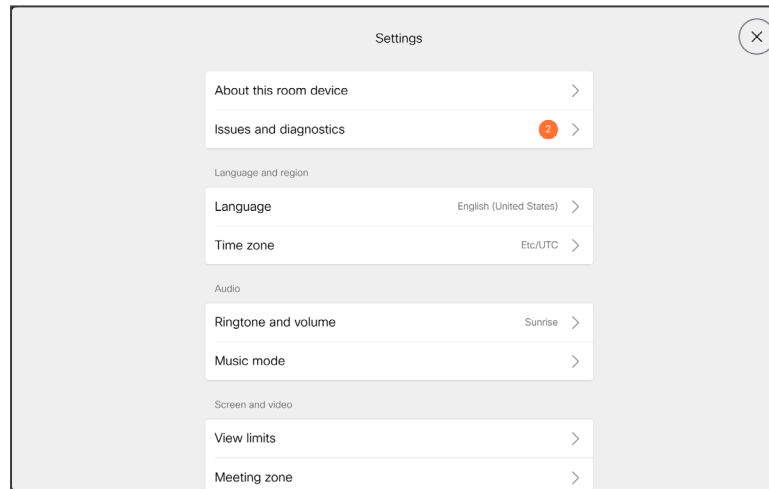
### 設定にアクセスする

コントロールパネルを開くには、タッチコントローラのホーム画面の右上隅にあるボタンをタップします。コントロールパネルでは、次の設定を確認できます。

- 音声設定
- マイクのオプション
- カメラ制御
- スタンバイ
- デバイス設定へのアクセス

[設定(Settings)]メニューにアクセスするには、コントロールパネルを開きます。次に、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。メニューが開き、スクロールできます。通話中の場合、通話の上にダイアログとしてメニューが開きます。

使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。



[設定 (Settings)]メニューでは、デバイスの情報を確認したり、設定の一部を変更したりできます。

- 詳細 - ビデオアドレス情報、IP アドレスと MAC アドレス、SIP プロキシおよび現在のソフトウェアバージョンを表示
- 問題と診断
- 着信音を選択して音量を設定する
- 音楽モードをオン/オフにする
- Miracast の有効化と無効化
- 通話サービスを選択する
- 有線および無線 (Wi-Fi) 接続を選択する
- デバイスを再起動する
- [初期設定にリセット (Factory Reset)] を実行して初期設定に戻します。これを行うと、現在の登録が失われます。初期設定にリセットすると元に戻すことはできません

このデバイスは、認定マークとコンプライアンス情報を画面に電子的に表示します。表示されるマークは、関連する技術基準および運用規制に準拠しています。表示方法は次のとおりです。

Room Navigator の定格ラベル情報は、[設定 (Settings)]メニューで確認できます。これらを確認するには、[設定 (Settings)] > [タッチパネルについて (About the touch Panel)] > [規制 (Regulatory)] の順に選択します。





米国本社  
Cisco Systems, Inc.  
San Jose, CA

アジア太平洋本社  
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.  
Singapore

ヨーロッパ本社  
Cisco Systems International BV アムステルダム、  
オランダ

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト([www.cisco.com/jp/go/offices](http://www.cisco.com/jp/go/offices))をご覧ください。

Cisco およびシスコのロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、[www.cisco.com/jp/go/trademarks](http://www.cisco.com/jp/go/trademarks) をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)